環境保全型有機質資源施用基準の設定

【研究概要】

①環境影響評価：都内農耕地(南多摩)を 11 地点について、栽培履歴と施肥状況の聞き取り調査を実施した。

②モニタリング(定点)：①の調査地点の土壌断面調査および土壌分析を実施し、一部で養分の過不足がみられたが概ねに適切に管理されていたことを確認した。

③モニタリング(島しょ)：本年度は三宅島のアシタバ圃場の土壌理化学性を調査した。北部の伊豆地区や神着地区と比較して南部の坪田地区の方がやや仮比重は高かったものの、有効水分は 10%以上と物理性に問題はなかった。化学性に関して全体的に交換性塩基や可給態リン酸が不足ぎみであった。

④有機質資源連用試験(基準点)：堆肥の長期連用試験を実施した。供試作物は試験開始時からか継続して春作キャベツ、秋作ダイコンである。収量に関して、化学肥料区と比較すると堆肥施用区で春作キャベツは 1.7 倍であったが、秋作ダイコンは変わらなかった。